

かわ

Vol.219 2013.10.1

Contents

河川協会通常総会 P1~P2

河川愛護絵画コンクール P3~P8

河川功労者表彰

福岡の身近な川とさかなを知ろう…… P9~P10
No16 西郷川で泳ぐ！

水辺の鳥図鑑／協会からのお知らせ…… P11



就任のご挨拶



福岡県河川協会会長

平井 一三

Kazumi hirai

(平成25年8月8日・総会)

去る、5月23日、福岡県議会県土整備委員会委員長に選任され、福岡県河川協会会長に就任いたしました。

本協会は、昭和26年に災害復旧事業の促進を目的とし「福岡県防災協会」として設立され、2年後の昭和28年に「福岡県防災治水協会」と名称変更を行った後、昭和47年に「福岡県河川協会」となり、現在に至っています。

この間、昭和28年の「西日本大水害」をはじめとして、毎年のように梅雨前線・台風による災害が発生しています。特に、昨年の7月の「九州北部豪雨」では、今までに経験したことのないような大雨により県南地域を中心に尊い生命や財産が奪われる大災害となりました。

今年は梅雨が例年と比べて早く明け、福岡県では一部に災害が発生したものの、幸いにも甚大な被害には至りませんでした。しかし、全国的には異常気象とも思える局所的な集中豪雨により、各地で大きな水害等が発生しております。このような水害を軽減・防止するため、本県では災害復旧事業だけではなく、河道の拡幅や堤防の補強といった各種の河川整備事業が進められています。

河川は、ひとたび状況が変化すれば大災害の発生も危惧されるところですが、飲料水や灌漑用水の水源として、また多くの人たちの憩いの場として、私たちの生活にとって必要不可欠なものであります。河川に対する県民の理解と愛護意識の醸成のために、毎年7月の河川愛護月間を中心に各市町村や愛護団体の協力を得て、当協会では福岡県と共に河川愛護に関する啓発運動に取り組んでいるところです。

また一方では、福岡県は深刻な水不足を度々経験しており、県民の日常生活を支える水を確保するために、水資源開発等が求められております。

今後もこのような多様な課題に対応するため、河川協会として河川行政の推進に積極的に協力をおこない、より効果的な活動をおこなって参りたいと考えております。

皆様のより一層のご指導とご支援をお願いいたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

平成25年度 福岡県河川協会通常総会

福岡県河川協会通常総会は平成25年8月8日(木)午後1時から、福岡市博多区吉塚本町の博多サンヒルズホテルにおいて、来賓、役員、会員、参与等約80名の出席のもと盛大に開催された。

福岡県、福岡県議会から来賓としてご臨席をいただき、会長のあいさつ、来賓あいさつの後、河川愛護絵画コンクール入賞者表彰、河川功労者表彰をおこなった。

次に、県の河川事業及び河川総合開発事業の概要につ

いて、河川課参事及び河川開発課長から説明がなされた。

議事は、平井会長を議長に平成24年度会務及び事業報告並びに決算の報告、平成25年度事業計画案及び予算案、役員の選任等が審議され、いずれも原案どおり議決承認された。

最後に要望決議案が上程審議され、満場一致で採択され、後日、関係機関及び地元選出国會議員に要望することとなった。



要望決議

福岡県における河川改修やダム建設の取り組みは、これまでも河川法 の精神である治水・利水・環境、それぞれの目的に沿って鋭意推進していただいているところであるが、未だ満足すべき状況には到っていない。

また、最近 は局地的大雨の発生頻度の高まりや渇水頻度の増加に対して安全で安心できる県土づくりが求められている。

さらに、ストレスの多い社会生活の中で河川環境に安らぎを求める人々が多いことや生物多様性の保全を進めるうえで河川環境の保全・再生が求められており、快適で潤いのある循環型の県土づくりが求められている。

ここに、福岡県河川協会は、平成25年度通常総会の総意に基づき、次の事項の実現を強く要望する。

1. 治水対策の根幹である河川改修やダム整備を計画的に推進すること。

1. 河川等の整備を推進するとともに、河川防災情報基盤の整備などによる情報伝達の充実や危険箇所・浸水想定区域の視覚化などのソフト対策の充実強化を図り、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を強力に推進すること。

1. 日頃の維持管理水準を高め、災害を未然に防止し、快適な河川環境を維持すること。また、大規模地震に備え、河川堤防等の耐震対策を着実に推進すること。

1. 災害が発生した場合には、迅速な対応を実施するとともに、集中的かつ機能的な災害復旧事業及び改良復旧事業を積極的に推進すること。

1. 安定的な水の供給を図るため、水資源開発を推進すること。

1. 地方自治体財政の現況に鑑み、河川事業に要する地方財源措置について、特段の配慮を講ずること。

以上決議する

平成25年8月8日

福岡県河川協会通常総会

平成25年度

河川愛護絵画コンクール

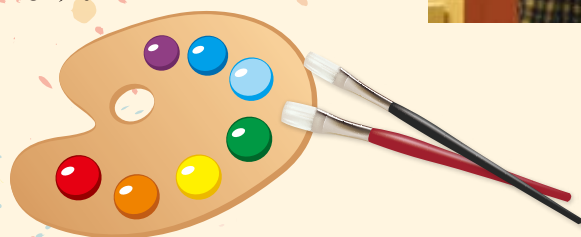
絵画コンクール
入賞発表

平成25年度

河川愛護絵画コンクール表彰式を行いました！

今年も、河川愛護月間(7月1日から7月31日)事業の一環として、河川愛護意識の高揚を図るために、小学校児童を対象とした河川愛護絵画コンクールを実施しました。「わたしたちと川の関わり」をテーマに、児童が日頃親しんでいる川との関わりや、こうあってほしいなという願いをこめた作品が多く寄せられました。

ここでは、特選3名の作品及び一等6名の作品と、全入賞者を紹介します。



表彰式の様子



講評

おじいさんの家の近くの川にはたくさんの生き物がいるんですね。川をじっと見つめる目とスッと川の中へ伸びた腕からは夢中になってさかなをとろうとする様子が伝わってきます。自分の楽しかった経験を基に描いたことがよく伝わってくる作品です。

特選[低学年]

「さかなとり」

柳川市立豊原小学校2年

おき あい り
沖 愛梨さん

この絵は、わたしと弟といっしょに、川にさかなをとりにいっているときの絵です。川にはじいちゃんがよくつれて行ってくれます。川で大きな魚を三びきとったことがあります。魚をつったり、手でとったり、あみですくったりしました。弟は、さかながとれると、「やった。」と大声を出してよろこびます。わたしもうれしいです。じいちゃんもニコニコがおで、よろこんでくれます。

じいちゃんの家のかくの川には、すっぽんや、かめ、ふな、川えび、あめんぼがいます。わたしは、じいちゃんが川につれて行ってくれる時、今日は、何がとれるかなと、ワクワクします。

わたしは、じいちゃんといっしょに行く川が大すきです。いつまでもさかなやたくさんの生きものがすむきれいな川をだいにして、まもっていききたいと思います。



講評

グッとザリガニを捕まえる手とそれを見つめる視線など細かいところまで気を配った表現ができて臨場感があります。魚やザリガニを見ることが好きなかだけあって、その形や色の特徴をよくとらえています。きれいな川というイメージを背景にあるアジサイの花が引き立てている作品です。

特選[中学年]

「きれいな川をのぞきたい」

みやこ町立久保小学校3年

よし つね ゆう と
義経 悠聡くん

ぼくは、川の中を泳いでいる魚やザリガニを見るのが大好きです。そして、底がすけて見える川の中に手を入れて、じっさいに魚やザリガニをさわってみたいなあと思いこの絵を描きました。

色をぬっていくとき、あじさいの花びらの色に気がつけてぬっていきました。魚を描くときも、うろこの一枚一枚をていねいにあらわすようにしました。

また、ザリガニも赤い色を工夫してあらわしました。ザリガニをさわっている自分を描いていくとき、なんだか本当に触っているような気持ちになってきて、むねがわくわくしてきました。

ぼくは、これからも川がよごれないで、きれいな川でいてくれるよう、ごみなどを捨てないようにしたいと思います。そして、魚や川の生き物が、すみやすい川にしていきたいです。

特選[高学年]

「川を魚でいっぱい」

みやこ町立豊津小学校5年

おく だ れん
奥田 廉くん

ぼくは、魚が大好きなので、「川を魚でいっぱいになりたい。」という願いを込めて、この絵を描きました。

自分が、豊かな自然の中で、小さな魚たちを大きく育て、川に放す様子を描きました。

苦労した所は、魚のうろここと自分の顔の表情です。特に、銀ブナのうろこのかけを描いて、立体的に見えるように、気をつけました。

アユ、ドジョウ、ドンコ、アカザも、うろこを一枚ずつていねいに描きました。

鱒淵ダムにキャンプに行った時に、紫川にヤマメがいました。バケツの中のヤマメを上から見ると黒っぽく見えるのに、横から見ると、小判型の赤い模様があって、とてもきれいでした。この絵で、魚たちの美しさが、見る人に伝わって、自然のすばらしさを感じ取ってもらえたら、とてもうれしいです。

講評

この作品は描かれているものの特徴をしっかりにとらえているということが優れています。表現についても魚を斜め上から見た描き方や、点描やグラデーションを使った着彩など技術的にも高い作品に仕上がっています。川を魚でいっぱいになりたいという思いが伝わってくる作品です。

河川愛護絵画コンクール

一等



えぐち こうえい
柳川市立柳河小学校1年 江口 航央くん



しら たに あや か
柳川市立豊原小学校2年 白谷 彩花さん



しげの ことね
行橋市立椿市小学校3年 重野 琴音さん



ことう けいじゅ
みやこ町立城井小学校4年 後藤 慧樹くん



えぐち ちなつ
みやこ町立豊津小学校5年 江口 千夏さん



ほしの ゆうな
柳川市立蒲池小学校6年 星野 友菜さん

平成25年度

河川愛護絵画コンクール入賞者 (敬称略)

特選

沖 愛梨	2年	柳川市立豊原小学校
義經 悠聡	3年	みやこ町立久保小学校
奥田 廉	5年	みやこ町立豊津小学校

一等

江口 航央	1年	柳川市立柳河小学校
白谷 彩花	2年	柳川市立豊原小学校
重野 琴音	3年	行橋市立椿市小学校
後藤 慧樹	4年	みやこ町立城井小学校
江口 千夏	5年	みやこ町立豊津小学校
星野 友菜	6年	柳川市立蒲池小学校

二等

かとう あゆか	1年	行橋市立延永小学校
宮本 季庸子	1年	柳川市立柳河小学校
樫山 侑翔	2年	行橋市立行橋小学校
宮永 航太朗	2年	柳川市立豊原小学校
森 愛奈	3年	行橋市立椿市小学校
新開 菜実	3年	柳川市立中山小学校
西 亮太	4年	苅田町立白川小学校
谷 響	4年	苅田町立白川小学校
中島 聖亜	5年	苅田町立片島小学校
遠藤 真凜	5年	みやこ町立豊津小学校
高山 菜々	6年	苅田町立白川小学校
松本 天音	6年	苅田町立片島小学校

三等

あきよしたくみ	1年	行橋市立延永小学校
谷口 慧吏	1年	みやこ町立城井小学校
北川 ゆうた	1年	行橋市立延永小学校
大坪 優那	2年	柳川市立豊原小学校
黒田 陽生	2年	柳川市立豊原小学校
植村 湖心	2年	みやこ町立上高屋小学校
竹中 すず	3年	みやこ町立久保小学校
松門 龍輝	3年	柳川市立中山小学校
藤丸 優羽	3年	柳川市立二ツ河小学校
細川 真衣	4年	苅田町立片島小学校
城戸 心	4年	みやこ町立城井小学校
森本 瑠	4年	苅田町立片島小学校
萩野 佑也	5年	柳川市立垂見小学校
伊東 諒馬	5年	行橋市立延永小学校
前田 祥吾	5年	苅田町立白川小学校
廣瀬 廉樹	6年	苅田町立白川小学校
堀内 浩志	6年	苅田町立白川小学校
吉田 風鈴	6年	苅田町立白川小学校

佳作

淵上 遥奈	1年	みやこ町立城井小学校
高田 芽依	1年	柳川市立中島小学校
澤山 姫奈	1年	行橋市立泉小学校
後藤 大翔	1年	みやこ町立城井小学校
大下 はやた	1年	行橋市立延永小学校
堤 祥麻	1年	柳川市立中島小学校
上田 虎太郎	2年	行橋市立行橋小学校
笹原 くるみ	2年	苅田町立南原小学校
早川 凜	3年	苅田町立苅田小学校
西川 美咲	3年	みやこ町立城井小学校
山崎 陽生	3年	みやこ町立豊津小学校
下川 瑞稀	3年	柳川市立中山小学校
木下 心愛	3年	柳川市立二ツ河小学校
西川 晋平	3年	柳川市立二ツ河小学校
江口 一真	3年	柳川市立二ツ河小学校
稲田 一斗	3年	みやこ町立久保小学校
白石 美聖	4年	苅田町立片島小学校
西田 彩夏	4年	苅田町立白川小学校
益戸 要	4年	苅田町立白川小学校
荒木 茅里	4年	みやこ町立城井小学校
徳永 小羽音	4年	苅田町立片島小学校
白石 歩夢	4年	みやこ町立城井小学校
黒岩 悠太	4年	苅田町立片島小学校
駒谷 周平	5年	苅田町立白川小学校
大水 佳南	5年	みやこ町立豊津小学校
橋本 藍輝	5年	苅田町立白川小学校
嶋田 あみ	6年	柳川市立垂見小学校
安東 彩葉	6年	行橋市立行橋小学校
富永 衣織	6年	行橋市立行橋小学校

全体講評 昨年度の全体講評で「感動したことを絵にするためには実際に自分が体験してみることが大切である」と申し上げました。本年度の全体的な特徴として、自分の体験を基に描かれた作品が増え、審査をされていて大変うれしく思いました。それぞれの作品にはドラマがあり、体験を通して感じた喜びや驚き、新しい発見などが伝わってきました。また、生き物の特徴をしっかりと観察し、色や形にこだわりを感じる作品もみられました。みなさんの川に対する愛情が作品を通して多くの人に伝わることを願っています。

福岡県教育庁教育振興部 義務教育課 指導主事 高野 直幸



河川功労者表彰

河川の維持管理に多大な貢献をされた皆様に対して8月8日の河川協会通常総会の席上で、表彰を行いました。
河川功労者とは、河川の機能保全、改善のために、特に力を尽くしその功績が顕著な個人並びに団体の事を指します。

知事表彰は1団体1名、河川協会表彰は、4団体1名で次のとおりです。

福岡県知事表彰

◆(南筑後) しら がねがわ まも かい 白銀川を守る会 様

◆(田 川) あん どう とよ み 安東 豊実 様

河川協会会長表彰

◆(北九州) なか ぬき ちょう ない かい か せん あい ご だん たい 中貫町内会河川愛護団体 様

◆(北九州) きん ざん がわ なが さき はす め かい 金山川長崎蓮芽会 様

◆(北九州) だい ひがし なか 14 く か せん あい ご かい 第東中14区河川愛護会 様

◆(北九州) おか がき まち しょう こう かい え び つ し ぶ 岡垣町商工会海老津支部 様

◆(田 川) あら まき かず お 荒巻 和生 様



表彰式の様子



平成25年度 「ふくおか水辺の安全講座」開催

近年、局地的集中豪雨による水害及び水難事故が全国各地で発生しています。川は、学び行動する場として非常に優れた場所ではありますが、その一方で、急な川の増水など危険が潜んだ場所でもあります。このような川に対する学びの場として、福岡県では、平成21年度から子どもを対象とした「ふくおか水辺の安全講座」を開催しており、本年度も開催いたしました。

開催日と会場

7月から9月にかけて、下記6箇所で「ふくおか水辺の安全講座」を開催しました。

	開催日	曜日	水系名	河川名	市町村名	施設
1	7月26日	金	瑞梅寺川	川原川 ^{かわばる}	糸島市	ファームパーク伊都国
2	7月31日	水	遠賀川	遠賀川	嘉麻市	宮野小学校
3	8月9日	金	矢部川	星野川	八女市	川崎小学校
4	9月15日	日	紫川	紫川	北九州市	勝山公園グリーンエコハウス
5	9月22日	日	祓川 ^{はらい}	祓川 ^{はらい}	みやこ町	祓郷小学校 ^{はらいごう}
6	9月29日	日	筑後川	山ノ井川	筑後市	サザンクス筑後

開催状況

施設内では、水辺の危険箇所などビデオで学習し、屋外では、実際に川の中に入っでの生物調査やカヌー乗船、レスキューロープ投げなど体験しました。

8月9日(金)開催分は、「ふくおかインターネットテレビ」にて視聴できます。ふくおかインターネットテレビのURLは下記のとおりです。

<http://webtv.pref.fukuoka.lg.jp/ja/movies/detail/1370>

開催講座紹介(川原川、遠賀川、紫川)



カッパが川の安全を教えるビデオを観ました。



カヌーを体験しました。



ライフジャケットを着て、流れ方等を学びました。



レスキューロープを体験しました。



いろんな生き物を観察しました。

今後の予定

来年度も引き続き開催する予定ですので、詳細な内容が決まり次第、募集のお知らせをいたします。多数のご参加をお待ちしています。

ふくおかの身近な川と さかなを知ろう

No.24 魚の大きさにはわけがある!

皆さんがよくご存じのコイ。いったい、どれくらい生きて、最大でどれくらいの大きさになるか、ご存知ですか? 観賞用で手厚く飼育されているもので、80年くらい生きるとされています。野生下では20年くらい、全長60cmになると言われています。私が過去捕獲した最大サイズはおよそ90cm、ウロコに見られる年輪の数から推定すると、少なくともそのコイの年齢は約25歳でした。一方、田んぼの周りの水路で見かけるメダカたち。その体サイズは最大でも4cm。寿命は1年程度と考えられています。同じ川、同じ池、同じ水路の中に、コイとメダカの両方を見かけることがたびたびありますが、いったい、なぜ、同じ淡水域に棲む2つの魚で、これほど大きさや寿命が異なるのだろう、なんて、感じたことはありませんか? もちろん、長い地球上の歴史の中でのそれぞれの進化・適応の結果ではあるのですが、実は、淡水魚類の大きさには一定の法則があるのです。

1 1960年代後半、アメリカの生物学者が、ある法則に気が付き、報告しております。その名はr/K戦略。簡単に説明すると、生き物の生息場として不安定な環境の場合、環境の変化が頻繁に起こります。そこに棲む生き物にとっては過酷で、死んでしまう確率が高い場所。そんなところに適応した生き物たちは、できるだけ早く繁殖して次世代を残そうとします。そのため、体が大きくなる前に成熟して、繁殖します。そして、繁殖にエネルギーを費やし、死んでしまいます。

環境条件が繁殖に適した時期、小さな卵をたくさん産んで爆発的に個体数を増やし、不安定な環境になったとき少数が生き残ればいい。そういった世代交代を数で乗り越えてきた生物の生活戦略がr戦略です。キーワードは、過酷な環境、早い成熟、短い寿命、小さな体、小卵多産です。もう一方はK戦略。生物にとって居心地がよい安定した環境。そのため、たくさんの生き物が生息可能となり、生物間および個体間の競争が起こります。その競争に勝つためには少しでも大きな子供を産んで、他の種に負けない子孫を残さなければなりません。だから、自分の体が大きくなってから繁殖します。より大きな子供を少数残して、子供の質で勝負する。キーワードは、安定した環境、競争、遅い成熟、長い寿命、大きな体、大卵少産です。

それでは、このr/K戦略を幾つかの魚たちに当てはめてみましょう。まずは、ダニオ亜科(ハヤの仲間)。農業用水路に棲むカワバタモロコとヒナモロコは約6cmで、繁殖開始年齢は1歳。一方、川に棲むオイカワ、カワムツは繁殖開始が2歳で、体の大きさは15cmです。次に、カマツカ亜科。農業用水路に棲むツチフキは約10cmで、繁殖開始は1歳。一方、川に棲むカマツカは繁殖開始が2-3歳、体の大きさは20cmです。近縁の種類を比べたとき、農業用水路の魚の方が小さくて早熟なr戦略的な生態を、川の魚の方が大きくて遅熟なK戦略的な生態を見せる傾向にあるのです。



カワバタモロコ



ヒナモロコ



オイカワ



カワムツ

そして、キーワードを思い出しましょう。過酷な環境だとr戦略、安定的な環境だとK戦略ですので、日本の淡水魚たちにとって、農業用水路は過酷な環境、川は安定的な環境と言えるのです。



カマツカ



ツチフキ

農 業用水路が過酷な環境？その理由は？と思われることでしょう。日本の平地の水田地帯に生息する生き物たちは、人間が稲作文明を持ち込む前、川があふれたところにできる湿地に生息していました。梅雨時期には川がしばしばあふれ、たくさんの湿地ができて安定的な環境を、梅雨が終わると降水量が減って、湿地の水が徐々に枯れて過酷な環境となっていたことでしょう。つまり、季節に応じた大幅な環境の変動を伴っていました。実は、現在の農業用水路も水田耕作に合わせて、水が多い時期、少ない時期を毎年繰り返しますので、昔も今も魚たちにとっては環境の変動の大きい過酷な環境と言えるのです。メダカを思い出してください。初夏の田んぼに水が入っている時期、群れをなして泳いでい

る姿をどこでも見ることでしょう。一方、冬場の水が少ない時期、メダカを捕まえるのは容易ではありません。昔で考えると渇水期が、現在では田んぼに水を導かない非灌漑期が過酷な環境なのです。

体 が小さく、寿命の短いr戦略タイプの魚たち。丁寧に飼育すると3年くらいは飼うことができます。そして、我々人間はとても器用ですので、野外に飼育条件のような安定的な環境を作り出すことができます。一方、r戦略的な魚の中には絶滅の危機に瀕する魚たちが存在し、我々人間は飼育条件のような安定的な環境を彼らに提供することができるでしょう。でも、彼らの長きに渡る歴史を考えたとき、真に必要な環境は季節に応じて変化を繰り返す湿地的な環境です。彼らはわざわざ過酷な環境を選び、それに適応して進化・適応してきたのです。絶滅危惧種の保存はとても大切ですが、彼らに飼育下のような環境を提供するのではなく、彼らが本来棲むべき湿地的環境を保全する、あるいは創造することが、真の生態系保全だということを忘れずに頂きたいと思います。

鬼倉 徳雄 おにくら のりお

- 九州大学大学院農学研究院・助教
- 日本水環境学会九州支部・評議委員
- 日本魚類学会自然保護委員会・希少魚類部会委員

主な著書／■有明海の生きものたち 干潟・河口域の生物多様性(佐藤正典編)
■干潟の海に生きる魚たち
有明海の豊かさと危機(日本魚類学会自然保護委員会編)

水辺の鳥図鑑

アオアシシギ

チドリ目シギ科

(学名: Tringa nebularia)

■ 撮影者: 犬鳴川流域文化研究会: 中村氏

■ 撮影地: 犬鳴川流域



全長が約32～35cm、翼開長が約65 cm。類似のシギ類と比べて、細身でスマートな体形をしている。コアオアシシギ(小青足鷺、学名: Tringa stagnatilis)よりふた回り大きい。夏羽は頭上から体の上面は灰色で、黒い斑がある。腹、腰、上尾筒は

白い。冬羽では頭から頸にかけて、白い部分が増える。嘴は灰黒色で、やや上に反っている。足は緑青色だが、黄色みを帯びているものもある。特に幼鳥の足は、ほぼ黄色である。雌雄同色である。

協会からのお知らせ

■ 平成25年度 九州地方治水大会

◎日時: 10月29日(火)

◎場所: 長崎市

主催: 全国治水期成同盟会連合会等

■ 河川事業現地研修

◎日時: 11月14日(水)～15日(金)

◎場所: 岡山県

主催: 福岡県河川協会

■ 平成25年度 治水事業促進全国大会

◎日時: 11月予定

◎場所: 東京都千代田区 砂防会館(予定)

主催: 全国治水期成同盟会連合会

■ 福岡県災害復旧実務講習会(第2回)

◎日時: 12月 予定

◎場所: 福岡県建設技術情報センター

主催: 福岡県県土整備部河川課・
福岡県河川協会

表紙の説明

河川愛護絵画コンクール 特選作品

河川愛護月間(7月1日から7月31日)の行事として実施した、平成25年度河川愛護絵画コンクールの特選3名の作品です。



編集 後記

関係者各位の御協力のもと平成25年度河川協会通常総会を開催しました。総会において河川愛護絵画コンクール入賞者の表彰と河川功労者の表彰をおこないました。おめでとうございます。(稲益)

◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL: 092-633-2826(直通)
FAX: 092-643-3669
企画 セントラル印刷株式会社